

申請者	学科名	デザイン工学科	職名	准教授	氏名	村木 克爾 印
調査研究課題	新製品開発に向けた県内企業支援プログラムの産学協働実践に関する調査研究					
交付決定額	1,200千円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	村木克爾	デザイン工学部 准教授	マネジメント工学	リーダー	
	分担者	山下明美	デザイン学部 教授	色彩・視覚デザイン	ビジュアルコミュニケーション	
		アンソニー・ブルネリ	デザイン学部 准教授	言語学	英語・デザイン技法関連分野	
		市川正美	情報工学部 准教授	振動解析	機械工学関連分野	
		上田篤嗣	デザイン学部 助教	Graphic デザイン	グラフィカルデザイン関連分野	
		三原鉄平	デザイン学部 助教	プロダクトデザイン	ブランディングプロデュース	
		筒井澄栄	国立リハビリテーションセンター 室長	福祉工学	福祉工学関連分野	
神代 充	富山大学 教授	ヒューマンインタフェース	認識工学関連			
調査研究実績の概要	<p>平成25年度における本地域貢献特別研究では、産学官連携推進センターの全コーディネータと緊密な連絡を取りつつ協調をして、提案型共同研究をベースにする地域企業へのアプローチと、既に地域コンソーシアムとして我々が独自に立ち上げているMoDDネットに参加あるいは賛同する企業を中心にした活動を実施した。</p> <p>今年度はアクティブ・ラボ等を利用した形で、株式会社是里ワイン醸造場〔赤磐市ドイツの森〕、株式会社システムタイズ〔岡山市〕、作新化成株式会社〔岡山市〕、富士インダストリアルマテリアルセンター〔岡山市〕、株式会社クニファーム〔新見市〕といった県内企業を対象として、MoDDあるいは教員個人単位でのアプローチを行った。またMoDDネットに関連している企業を対象とした活動も例年と同様のレベルで行った。</p> <p>それらは全て新たなブランド展開に関連する新製品の開発に関係するものであり、中小規模に分類される企業の切実な希求がうかがえる。その中で今年度は、特に、昨年度からの継続的研究として作新化成株式会社と共同研究および受託研究を成立させている。</p>					
<p>（地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）</p>						

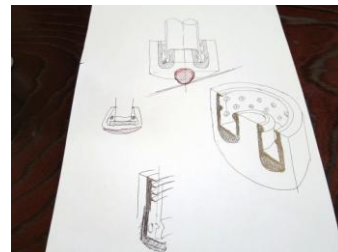
調査研究実績
の概要

地域貢献への
反映を踏まえ
て記述のこと

その中でも株式会社クニファームとは個別の共同研究だけではなく、新見・阿哲地域の活性化と振興を目的とした農林産業の6次産業化ネットワーク事業も視野に入れた内容での打ち合わせを進めている。来年度に向けての新たな地域貢献としての結実が多いに期待できる。

以上に示した内容の一部は「日本酒を世界に！」セミナー〔2014年2月21日／主催：中国地域知的財産戦略本部，中国経済産業局，ジェトロ岡山，後援：広島国税局〕において，本特別研究の代表である村木准教授による「デザイン商品開発手法（お酒のデザイン開発の可能性）」と題した講演の中で紹介されている。

また中国電力エネルギー総合研究所から発行されている「蒼い風」〔第80巻／2014年3月1日発行〕における特集「企業力を高めるデザイン」において「産学連携でデザインを支援する岡山県立大学」として取り上げられ，この特別研究の代表である村木および村木を中心とするMoDDグループが関わって行ってきた産学連携活動が紹介されている。



<作新化成株式会社との研究風景>



企業力を高めるデザイン
産学官連携でデザインを支援する岡山県立大学

企業力向上に不可欠なデザインを、産学官連携で支援する。岡山県立大学は、産学官連携によるデザイン支援事業を実施している。本事業は、企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。

産学官連携でデザインを支援する

企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。本事業は、企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。

産学官連携でデザインを支援する

企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。本事業は、企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。

産学官連携でデザインを支援する

企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。本事業は、企業と大学が連携し、製品のデザインを改善し、競争力を高めることを目的としている。

成果資料目録